



## ポートアイランド情報

神戸ポートアイランド博覧会（昭和五十六年三月二十日～九月十五日開催）

# 国際広場では楽しい催し物

### ★国際広場の催し物決定

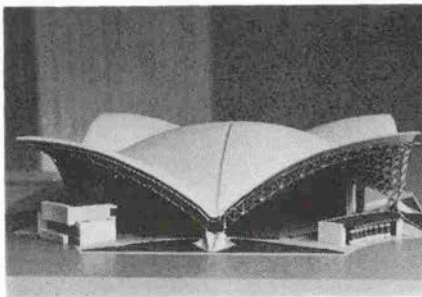
祭りや音楽祭が中心

ポートピア'81の会期中の催しは国際広場をメインに行なわれるが、この国際広場の構想と主なスケジュールが決まった。

国際広場は、全体がドーム形のシエルターで覆われた設計で、面積約七平方キロ。収容観客数は広場部分約千人、広場外周スタンド約千六百人。建築費は約五億円。またこの国際広場での催しは、

神戸ポートアイランド博覧会協会が主催し、宝塚歌劇団の演出家、内海重典さんが企画プロデュースし、決定した催し物スケジュールは次の通り。

- ★ビバノビア・ポートピア'81誕生（3月20日～26日）
- ★ポートピア音楽祭（27日～29日）
- ★アメリカンショー #ヤバ・ダバ・ドウ（4月2日～15日）
- ★ポートピア花まつり（17日～22日）
- ★宝塚グランドフェスティバル（29日～5月18日）
- ★こども世界のまつり（5月3日～5日）
- ★日本の太鼓まつり（20日～24日）
- ★ニューミュージック・フェスティバル（25日～29日）
- ★郷土芸能・兵庫のまつり（6月1日～3日）
- ★二千人の吹奏楽（6日）
- ★体操フェスティバル（9日～10日）
- ★アジア民族芸能（12日～14日）



国際広場の完成予想模型

- ★ビバノベキシコ（15日～22日）
- ★キャンパス・ミュージックフェア（29日～7月1日）
- ★日本の演歌（2日～5日）
- ★BYUアメリカンショー（6日～11日）
- ★シャンソン・ドウ・ポートピア（13日～15日）
- ★ポートピアジャズフェスティバル（17日～21日）
- ★ちびっ子マンガ大集合（22日～24日）
- ★アフリカ民族舞踊（28日～8月1日）
- ★ミュージカルパレード（2日）
- ★こども夏まつり（5日～7日）
- ★日本のまつり（8日～11日）
- ★ポートピア盆踊り（12日～14日）
- ★リオのカニバル（15日～23日）
- ★ニューミュージック・フェスティバル（24日～27日）
- ★OSK日本歌劇団公演（29日～9月1日）
- ★ミスインターナショナル世界大会（4日～6日）
- ★さよならポートピア'81（8日～15日）

公演時間は、3月20日～4月30日が午後一時と午後四時から、5月1日～9月15日は午後2時と午後6時から、各二回公演で入場は無料。

### ★サンヨーは得意の

ソーラー・システムを利用

三洋電機のパビリオン「サンヨーソーラリアム」は、太陽への讃歌をテーマにして同社が意欲的に開発している太陽エネルギーの利用技術をみせる。同館は中央広場の北東に位置し、池に囲まれた片流れ大屋根の建物。屋根に約三千本のソーラー・コレクターを設置して冷房を行ない、池にコレクターを積み重ねたソーラー塔を設置して夜間の照明を行なう。



サンヨーソーラリアム完成予想図

また内部の展示では「太陽への旅」「太陽への讃歌」「太陽と遊ぶ」など六つのコーナーにわけて人間が太陽や宇宙に托す夢や情熱を歌いあげる。例えば「太陽への旅」では、ドーム状の通路に超スピードで流れ去る光、星間物質、宇宙船などを映し出して、未来の宇宙旅行のイメージ体験。

また「太陽をつかまえよう」では、アモルファス太陽電池を使った未来のパノラマや、太陽発電衛星のような宇宙エネルギー開発計画の紹介を、エレクトロニクス技術の粋を尽くして展開する。総予算約八億円。

★住友館は坂東玉三郎が演出する愛と希望のファンタジア  
住友商事など六十三社で構成される住友グループの「住友館」の概要が発表された。

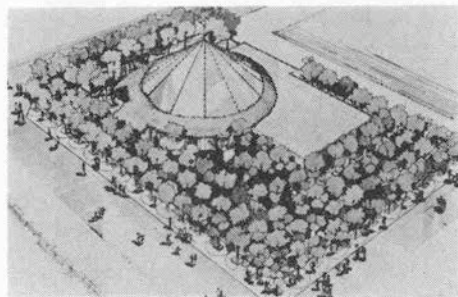
約二千五百十平方メートルの敷地に、兵庫県の県木であるくすのきの森を作り、森の中の円形の劇場で展

★胸元にポートピアをつけよう  
全国の記章業者が集まって作っている神戸ポートアイランド博メタル記念品協会から、ボー



ポートピアバッジ（赤、青、緑の三色）

開されるシンセサイザーによるピラミッド・サウンドと光、人形の幻想劇を構成する。テーマは「愛と希望のファンタジア」。舞台では、流体制御ロボットシステムなどのメカニズムと最新のエレクトロニクスが結合した完全自動化の童話劇を坂東玉三郎の演出と富田勲の音楽によって展開する。事業費約九億円。

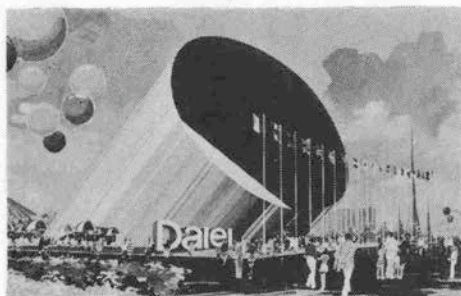


住友館完成予想図

トピアバッジが売り出された。直径一・五センチ、真中にポートピアのシンボルマークが浮き出て色は赤、青、緑の三色。一個三百円でそのうち五十円を協賛金として博覧会協会に寄付する。現在には神戸市内の記章屋でのみ扱っているが、将来百貨店や駅にも置く予定。新しい「神戸みやげ」としてちょっとした人気問い合わせ／電話33110874 毛利マキ

★ダイエーは日本初のシステムオムニマックスを活用  
生活提案企業・ダイエーのパビリオンは、ワールドコースター・ご家族そろって世界一周をテーマに、立体感のある映像オムニマックスを導入し、超絶めまい体験の旅を展開する計画で、中内功同社社長がこの企画の着想の主。

三百五十八人収容のオムニマックスシアターは、直径二十三メートルのドーム状スクリーンと魚眼レンズを組み合わせるオムニマックスという映像システムを活用するもので、観客は空間や時間を自由に移動できる。この劇場はアメリカとメキシコで実現されているが、日本では初めて。



ダイエーパビリオン予想完成図

また「ワールド産直バザール」を設置して、世界各地のベストソイスからお土産などの好適品を集めて販売する。総経費約十億円。

## 念願の東京進出を果たした

# 神栄石野証券



「制約を克服するところに仕事の妙味がある」と語る  
石野成明・神栄石野証券社長

——昨年四月一日に神栄証券、東京神栄証券と合併され、待望の東京進出を果たされたわけですが、どういうところにメリットをお感じですか。

石野 神戸の証券会社が東京へ進出したのは当社が初めてですね。東京進出のメリットの第一点は、これまでは東証の会員資格がなかったので、東京で直接、売買が来ず、兵庫県の顧客に十分なサービスが出来なかったのが出来るようになったということです。

第二点としては、神戸だけではなく全国の法人の金融資産の動きは現状として殆んど東京へ集まっている。成

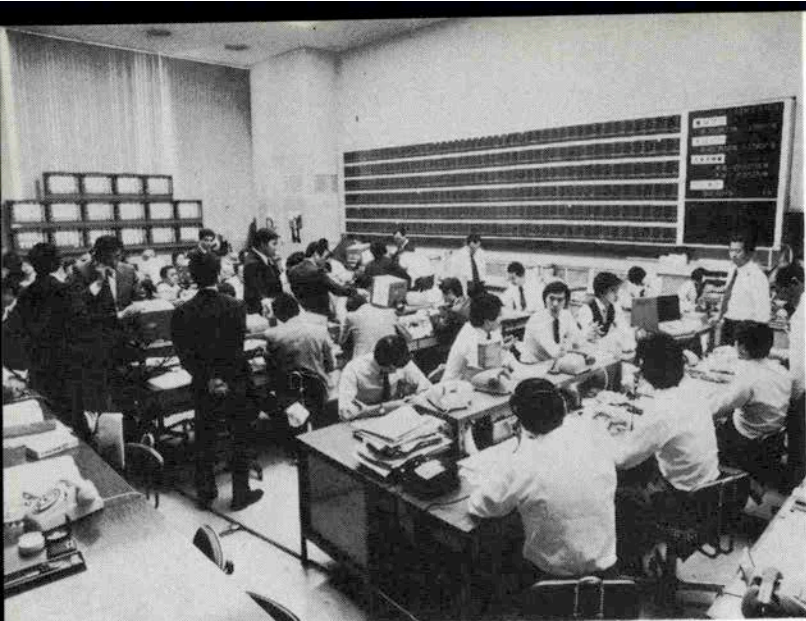
程、本社は神戸にあるけれども金融的な動きは東京へウェイトがかかっているということです。そういう会社から注文を頂戴しようと思うと、やはり東京へ出て行く必要があったということです。

第三点としては、証券は常に情報が必要とするということですね。確かに神戸でもある程度の情報は入るけれど、東京ではより多くの情報が得られるということです。——石野社長は若くして先代の石野貞雄さん（現名誉会長）から経営をバトンタッチされたのですが、いろいろ苦勞があったのではないですか。

石野 証券の仕事に関しては三十年のキャリアになりますね。現在の従業員は四百二十人ですが、三十年前には十五人位からスタートしました。その間、外から見てもまた自分としても大変苦勞であったということは事実ですね。しかし、私自身はそれを苦勞だと思っていないわけです。たとえば、十年前に神戸証券取引所を廃止したとき、「石野は苦勞しているな」と周囲から思われたし確かにかなり苦しい環境ではあったけれど、私自身は前向きに問題を一つ一つ取り除いて行こうという努力を払って来ましたので、苦勞でかなわんという意識はなかったですね。これも一つの生き方、考え方でしょうね。

本當の苦勞とは「為すところを知らず」といいますか苦勞の原因を取り除く努力の仕方が分らない、あるいは努力をしないというときに苦勞と考えるのであって、自分の力、組織の力で何とか苦勞の原因を除こうという





午前10時から11時の時間帯は最も活気のあるときだ（栄町の本社1階）

目的をもって努力しているとき、それは苦労ではなくむしろ、人間の生き甲斐であり、仕事のやり甲斐だと考えています。

限られた資金と限られた組織、限られたスタッフでもって努力して行くことが仕事であって、十分な人材、十分な資金で効果があることを狙うのは、これは仕事だといえない。どこかに制約があつて、それを克服して行くところに仕事の妙味があると思います。それと、常に新しいものへ挑戦して行くファイト、これが必要です。

——お客さまへのアドバイスをお願いします。

石野 株式は多かれ少なかれリスク（危険性）のあるものです。利益が大きい反面、損もする。これは証券だけではなく、債権もそうですが、お客さまのニーズに応

じた適切な商品をすすめて行くことがこれからの証券業者の一番大事なことです。資本が利益を生み出して行く場合、危険な投資ほど、利率が高いという原則的なものがあります。

ですから、お客さまには大きな利益を得ようと思うとそれだけ危険度が大きくなるということを理解して欲しいのです。利益が少なければ元金の安全性が高くなる。高利に回そうとすると危険が伴なうということです。

——今後の抱負を聞かせて下さい。

石野 あくまで地元に着した証券会社だということですね。スタッフがすぐどこかへ転勤するということもないわけで、それだけ、お客さまに対しては、“スロー・バット・ステディ”といいますが、遅いけれど確実にやって行つて貰えるような営業のやり方をしなければいけないということでは、どこにも負けない気持ちです。地元の人たちに愛される証券会社ということですね。

そのためにはリスクなことにお客さまをお誘いしてはいけません。なるべくステディに利殖をしていただいて、株式投資の妙味を味わせた方がいいです。

最後にこれからの問題はどこにあるとお考えですか  
石野 既存の組織をもっている東京の証券会社と合併したので、関東に五店舗が増えて全部で十四店舗になりました。この組織にどう活力をもたせて、どう活発なものに仕上げて行くかということが今後の問題ですね。顧客から受けた注文を東京へ流して売買を処理する機能というか、処理能力の問題です。組織を序々に強化して行く。どこでもそうでしょうが、結局、人と組織の問題です。

全国的に見てもかなりの規模の証券会社になって来たので、組織が全力を発揮できるような体制づくりが急がれます。さらに人材の育成は組織のように一朝一夕には出来ませんから大変です。と同時に、これからの証券会社の命運を左右するのはコンピュータリゼーションの問題ですね。それへ対応しているような機能を備えて行かなければいけないでしょうね。

△文責／編集部▽

# オリエンタル レディスクラブ

会 員 募 集 中



オランダ総領事館協力による  
オランダ料理のグルメの会

年会費：お一人 5,000円

割 引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル  
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし  
ます。その他いろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

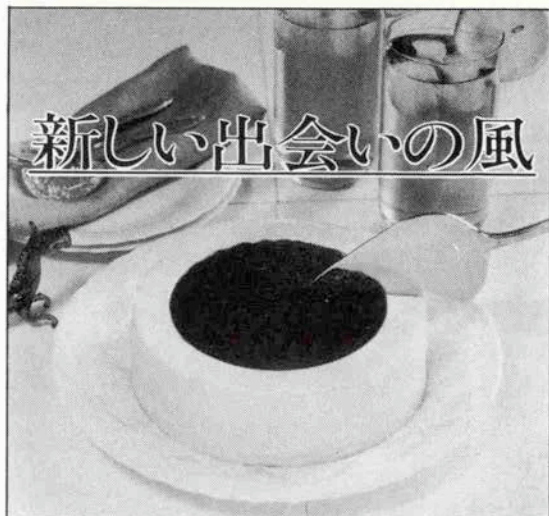
お問い合わせ

**オリエンタルレディスクラブ事務局**

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎(078)331-8111

## 新しい出会いの風



毎日、新しい出会いがあればいい。

人であれ、物であれ、

それが自分自身であれ、

何かひとつは、新しい出会いがほしい。

今日、出会った新しいおいしさ。

ユーハイムのヨーグルトトルテ。

ヨーグルトの甘ずっぱさと

ヒンペアーソースの香りが微妙にとけあって

甘いケーキにあきたあなたに

きっと新しい出会いになるでしょう。

●その他ハイドルベアソース、オランジェンソース、プレーンがあります。

本 店・三 宮 生 田 神 社 前 TEL 331-1694

三 宮 店・三 宮 大 丸 前 TEL 331-2101

さんちか店・三宮地下街スウィーツタウン内 TEL 391-3539

ドイツ本店・フランクフルトゲートハウス内



このマークのお店でお買い求め下さい



△その10▽

## ソーラーシステムの開発

### 大分大学エネルギー工学科施設

嶋田勝次△神戸大学工学部建築科助教授▽

省エネルギーの方策については大分叫ばれ、いろいろな試みが行われて来ている。太陽熱利用のソーラーシステムの開発はその身近な例であり、更にまっとうな取り組みが、このたび大分大学工学部で発足した。

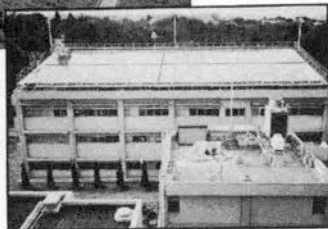
私共の神戸大学工学部でも新しい建築施設の計画に組み込もうと大分大学工学部エネルギー工学科の施設を視察した。

大分大学は神戸大学のようなマ



<上>大分大学工学部全景（大分市大字旦野原）

<下>ソーラービルのエネルギー実験研究室棟



ンモス大学と異なり、こじんまりとまとまって、特色あるユニークな内容を誇っている。大分市街地南部丘陵地に新しく移転建設され閑静な自然の中にある。経済・教育・工学の三部より成り、工学部は四十七年設立、機械工学・電気工学・組織工学・化学環境工学・エネルギー工学・建設工学の六学科で各四講座編成という構成だ。

その中でもエネルギー工学科は新しい内容で、エネルギー基礎・エネルギー資源・エネルギー変換・エネルギー伝送と分かれ、かなりの期待と実績が積み上げられている。そしてこの学科の建物自身がソーラービルとして実現しているのである。屋上全面を集熱板で覆い、別棟の蓄熱槽にその太陽熱エネルギーを貯え、当建物の冷暖房に利用すると共に、多様な関連測定調査を継続して実施している。

この建物を「ソーラービル」とも称し、当初、通産省工業技術院の主管プロジェクト「サンシャイン計画」に基づく大型建物太陽冷暖房給湯システムの研究開発の実験建物として、川重・鹿島・東洋熱

工学の三社共同研究で開発が進められ、文部省の建築施設にドッキングされたものである。

研究棟延一六九二・二三㎡の三階建と、機械棟延一七七・〇四㎡の二階建て、五十二年三月竣工、機械据付・調整運転を経て、実験計測が五十三年四月から行われている。

太陽熱は、まず屋根面上部に並べられた十度勾配の集熱板の中を流れる水に受けとめ、温められた温水を別棟の鋼板製の五〇㎡の蓄熱槽に引き入れて熱が蓄えられる。冷房の場合はその蓄熱槽で別系統の水を温め（約八十五℃）、その温水を吸収冷却して冷水を作るものであり、暖房の場合は集熱回路と蓄熱槽回路で水を温める（約四十五℃）ものであり、いずれもその冷水や温水を空調機により空気を暖めたり冷やしたりし、輻射天井や床から室内気候を作り出すものである。

この機構設備施設を視察し、新しいエネルギー資源の開拓にいろいろなヒントを得たが、まだまだこれから模索が山積みしていることを感じた。

折角の大分で城下がきれいの季節に早くて残念ながら賞味出来ず、麦焼酎と共に春の一日は暮れ、翌日は久大線に乗ったのどかな旅であった。

# トーマスさんちの風見鶏

杉山 義法〈放送作家〉

カメラ/緒方 しげを

西独フランクフルト在住のエルゼ・カルボウさんと云う老婦人が、NHK特派員のインタビュに答えて――  
「船で神戸の港に入ると、皆さんが『あ、トーマスさんのうちの風見鶏が見えた』とよく云ったものです……」  
と「風見鶏の館」の思い出を語っている。ご存知の方もあろうが、カルボウさんは「風見鶏の館」を建てたトーマスさんの娘さんで、横浜に生まれ、2才から14才まで「風見鶏の館」に住んでいた人である。インタビュは勿論ドイツ語だったが、その中の「ア、トーマスサンノウチ」の部分だけが明瞭な日本語だったのが印象深かった。

その旧トーマス邸の風見鶏を、私がNHKの連続テレビ小説「風見鶏」のモチーフに使った事から、この特集の「風見鶏の館」を受持つ事になったらしい。そこでハタと気がついたのだが、私はまだ「風見鶏の館」の内部を一度も見た事がない。外側だけは、仕事に疲れるとホテルをさまよい出て何度も見に行った。見る度に新たな発想が生まれる様な気がして、あの風見鶏にはどれ程励まされたか知れない。

はじめて旧トーマス邸の風見鶏を見た時は、ちよつと意外な気がした。港から吹いて来る風に向って、毅然とスマートに立っている風見鶏を想像していたからである。ところがトーマスさんちの風見鶏は、何に驚いてか、二本の足で思い切り大地を蹴り、鋭いくちばしをカッと開

いて、うっかり手を出そうものなら、一撃で甲を喰い千切られそうな猛々しさである。

「なんであんなにバタバタしているのだろう?」

それが第一印象だった。だが、考えてみれば、風見鶏はもともと、教会の尖塔につけられた魔除けの雄鶏だから、猛々しく戦斗的なのは当然である。それはきつと、故国を遠く離れて異郷で暮らす異人さん達にとって、梯子を取りはずされた屋根のテツペンで、たえず国際状況と云う風を気にしている自分達の心情が象徴されている様に思えたのだらう。そんな事を考えて何度か眺めているうちに、今度は目には見えないものまでが見えて来た。あの風見鶏の下にもう一羽、体をまるくしてうずくまっている雌鶏がいる。そのふくらませた羽の下には、生まれたばかりのヒヨコが何羽かふるえているに違いない――トーマスさんちの風見鶏を見ると、そんな光景が臉の裏側に浮かんで来るのである。風見鶏の異人さんと結婚した日本の女性もまた、風見鶏ではなかったか? 「それがNHK朝のテレビ小説「風見鶏」のヒロイン・松浦さんのイメージになり、ブルックマイヤー一家の波瀾のストーリーが生まれた。

以来、放送が終ったいまも、なんとなく風見鶏と縁が切れない。各地で様々な風見鶏を見たが、私はやはりトーマスさんちの風見鶏が一番気に入っている。ブラジルのアマゾン河口の古い港町ベレンでも、赤道直下の炎天



に灼かれている風見鶏を見た。去年の暮れには、北海道の函館で雪の中の風見鶏も見た。その一つ一つのいわく因縁を尋ねれば、それぞれにドキリとする様なエピソードが秘められているかも知れない。

いま、テレビ小説を書いていた時の資料がどこかに入り込んでしまつて確かめられないのだが、トーマスさんの風見鶏をデザインした人はどう云う人だったのだろう。確かオリエンタル・ホテルの風見鶏をデザインしたのもその人だったと記憶しているが、機会があったらその人の事を調べてみたい。

それともう一つ、トーマス邸の風見鶏の真下の天井に

は、東西南北を示す方位盤がついていて「家の中からも風向きがわかる様になっていた筈である」と教えてくれた人がいたが、ほんとうだろうか。今度、神戸へ行ったら確かめようとも思うのだが、行けば毎度深夜に及ぶカラオケ狂いで、いまだに果せずにいる。

「風見鶏」放送当時、旧トーマス邸は中華同文学学校の寮に使われていて、クリスマス近いある夜、中山手通りのブラジル・レストランで、たまたま同席して一緒に歌を唄った同文学学校の卒業生達の爽やかな笑顔が忘れられない。異人館が素敵なのは、人のぬくもりが残っているからである。

異人館のシンボルというよりも菅戸のシンボル  
となった「風見鶏の館」(北野町)





# ラインの館

島 京子（作家）

カメラ／緒方 しげを

神戸に育った私には、異人館のある風景というのは、眼になじんでいて、どうということもないが、以前、毎夏信州へゆき、一か月滞在していたとき、同じ民宿に泊りあわせていた人たちから羨やましげられたものだ。

「神戸、一度行ってみたいですね。外人が多く住んでいるのでしょう。本ものの西洋館もたくさんあるのでしょう」

他郷の人のあこがれが、近ごろの異人館ブームに結実したのだろうか。

その異人館のひとつ「ラインの館」を見に出かけたのは、やわらかく萌え出たばかりの新緑が、四月末の陽をうけて初々しく光っている午後であった。

北野坂を車で登りつめ、右折。東西の北野通りをわずかに走ると、歩道上に「ラインの館」の表示があった。車を下り、看板の矢じるしに誘われ、北への階段を少し登ると左手にレンガ塀にかこまれた館があった。

玄関口まで敷かれたレンガの通路を歩き、館の中に入ると、平日にもかかわらず、かなりの見物客が来ていた。

ドイツの歌が流れている。（何の歌かわからなかったが）

西側の二部屋が、ドイツ人が始めたことでよく知られているお菓子会社経営の喫茶室になっていて、歌はそこから流れてくるわけだ。ドイツ製の家具調度が使われているという喫茶室には、三組ばかりの若いカップル、若

い女性グループ、主婦らしい中年の二人連れが、籐製の背もたれのついた椅子に坐り、一枚板のテーブルを前にコーヒを飲んでいた。エキゾチズムとアンティークの混じりあう空間ですごすひとときは、まちがいない、流れ去る時間を「思い出」のひとつに定着させる作用を果すのだろう。

神戸にも残り少なくなった異人館は、やはり外国にもない神戸独特のものなのだろう。明治から大正にかけての歴史の変革期に、簡単な外人住宅として建てられたものと聞いたことがある。

この「ラインの館」も大正四年の建築で、クリーム色のペンキで塗られ、茶のふちどりが、外壁に規則正しい模様を描いている。その線（ライン）が美しいというところから、名がつけられた由。

二階に上ってみると、からし色の敷物がいくぶんくたびれ気味の部屋は、がらんとしており、白い壁に神戸の歴史を伝える写真や絵が展示されていた。

サン・ルーム風なベランダに出ると、明るい陽ざしが入る窓ガラス越しに、春がすみにかすんだ市街地が見える。夜景が美しかろうと思ひながら、むかしもいまも、欧米人は港町の高台に住むのを好む、ということを考える。ゆとりとか、生活をエンジョイするという彼らのメンタリティがうかがわれるが、またこれは彼らの富と地位、プライドをもうかがわせる。

庭に出て、手入れのゆきとどいた庭木を眺めた。  
カエデ、アラカシ、タイザンボク、ヤブツバキ、モツ  
コウ、ヒラドツツジ、ノシクラメン、トペラ、シユロな  
どの樹木が館の西側にあるこじんまりした石畳の庭の周  
りをかこむようにして植えられている。案内書にある  
「珍しいドイツとうひ」（クリスマスツリーに使うモ  
ミの木）はどれか、と探して眺める。  
しばらくカエデの樹かげのベンチに坐っていると、一  
組の老夫婦が仲よく館を背景にして、互にカメラのシャ  
ッターを切っていたが、そのうち主人の方が近づいてき  
「すみませんが、ちょっとお願いでき……」  
みなまで聞かず、私はすぐ立って、カメラを受けとつ  
た。

陽ざしがファインダーの中の館と二人をくつきりと浮  
かびあがらせていた。  
カメラを返しながら聞く。  
「どこから、いらっしゃいました」  
「岡山から来ました」  
新幹線に乗って、きょうのうちに帰るという。若い人  
たちとはちがい、この二人には、異人館はノスタルジア  
に通じるものだろうか、とふと思う。  
カメラをかまえた若い男が、思い思いの角度から館を  
写す光景が頻繁に見られるようになり、やがて中高年の  
女性の団体が門からどつと流れこんできた。  
同じような光景が、これから先、どれほどくり返して  
づけられるのだろうか、と思ひながら館をあとにした。

広い庭には石造りの舞台もある「ラインの館」  
（北野町）





# 華僑総会の主人公

春木 一夫(作家)

カメラ/緒方 しげを

神戸華僑総会は明治四十二年の建築で、もとのゲンセン邸である。木造二階建てで、ベランダやベイ・ウインドーがあり、壁は下見張りペンキ塗、コロニアル・スタイルの洋館である。

華僑といえ、中国人で海外に僑居する、すなわち仮り住居をしているという意味であるが、実態はそうではない。仮り住居は日僑で、華僑は永住してしまふところが面白い。

南シナ一帯に、望夫山とか望夫石の伝説が多い。中でも香港対岸の九竜郊外にある望夫山は有名である。海外へ出稼ぎに行った夫たちが、送金はしてくるが帰ってこない。残された妻は小高い山に登り、南の海を眺めているうちに、石と化してしまったという哀れな物語である。

このように華僑は全世界に散らばっている、世界のマーケットを支配しているのは、華僑だと思っていた。ところがある日、梅棹忠夫助教授(現在は国立民族学博物館館長)と話していたら、華僑の勢力はビルマまでだという。インド以西は印僑、ギリシア以西は希僑だと教えられた。その後、東南アジアやインドを回って見て、なる程華僑の勢力はビルマまでだということがよくわかった。

ここ数年、ベトナムから華僑が、どしどし越境して帰国している。ベトナムの社会主義に圧迫されてのことだ

ある。これもうなづける。十年前、ビルマのラングーンへ行つたとき、華僑の息子で日本語を勉強している青年と出会った。ビルマ政府は社会主義を唱えており、物資は統制だから商売はあがりたりだと慨いていた。

「なんで日本語を勉強するのや。日本人がやってきたら、その時就職するためかいな」

「うんにゃ、そやない。日本語が面白いからや」という。

大阪船場の商人が、昼間はゼニ儲けに懸命であるが、夜ともなれば懷徳堂や泊園書院などへ出かけ、楽しみながら聖賢の道を学んだのと軌を一にしている。ゼニ儲けと純粋な学問とを、はつきり割り切っている点がえてして妙である。大阪人は華僑によく似ているといわれるが、華僑の魅力もこうした処にあるのでは……。

華僑といえ、蒙古にいたころ大そう仲の良かった衣料商がいる。ある時、私はクループス肺炎にかかり、四十度以上の熱を出した。日に何回も下着を替えねばならない。洗濯しただけでは足りない、毎日買っていたが、それを全部彼がまかなってくれた。一月程で全快したので、衣料の清算に出かけていった。少しは負けてくれるだろうと思っていたが、ビタ一文値引きしない。そして、彼はいった。

「私は君の友達だから、あんたが困っている時に助けるのは、当然のことだ。だから、下着の代金など貰おうな

どと思ったことは、ただの一度もない。しかし、あんたはそれを支払うという。そうなれば商売だから、私は利益を得るために、一銭も割引きはしない。あんたはどっちの方を取るかね」

丸損か全額払いか、どちらかだというのだ。参った私は、彼の好意を受入れざるをえなかった。

このように華僑は、いったん信用すると、とことんまで親身になってくれる。これが中国人の良さである。恐らくこれは、儒教で強調されている人情を重んじる道德観にもとづくものであらう。

ところが最近になって、孔子批判が再燃してきたと、報道されている。香港の中立系紙「明報」は、論語を引用しながら、儒教が現代中国に及ぼしている悪影響について述べているのだ。「人情を重んずる道德観念」は、唯

物論を基礎とする社会主義国家になっても消えず、「コネによる解決」「ヤミ取引」「裏口行為」などの諸悪を生んでいるという。

さらに人情社会は、中国人のよく口にする「一家人」意識を育てる。「論語」(顔淵篇)は、「君子は礼を守り、慎み深く人と交わって行くものだ。そうすれば人間すべてが兄弟になれる」と述べているが、こうした意識は権利・義務の観念を希薄にしてしまう。これは指導部が一般民衆による民主・人権の要求を抑えつけるのにはもってこいだと批判する。また、「人情社会」は、「法治」に対する「人治」「徳治」への期待を呼び、これに失敗すれば専制政治を生むともいう。こうした批判が果たして妥当なのか。やはり私の脳裏には、人情的な華僑の姿が生きつづけていることを、拒むわけにはいかない。

北野町の高台にひっそりとたずむ石垣の上の「神戸華僑秘会」





# 麦の秋

秋吉 好(作家)

カメラ/緒方 しげを

大きく開いたヴェランダの窓から潮風が吹き抜けた。庭のアゼイリアが満開だった。低い煉瓦塀のそばで、妻の愛子と侍女が花を摘んでいた。

生田の森を囲んで洋館が立つ。港がひろがる。白い外洋船が出て行く。海は青いベルトのようだ。対岸にかすかに林立する煙突が見える。北野町に来たころは、田畑の続きに住吉や荳屋の浜の松林が見え、その上に遠く大阪鉄工所の建物のがぞまれた。しかし、今ではそれも煤煙に隠された。この国の近代化は恐ろしいほどの速さで進んでいた。

ハンターの胸底には、三年前に長男の龍太郎が所主をやめたときに感じた、言いようのない淋しさが蟠っている。安治川の河口の三角洲で、わずか二百人で始めた工場が、五十年足らずで日本有数の造船所になった。たしかに彼はそれだけで満足しなければならなかった。もはや個人の時代ではなかった。

下から妻が呼びかけた。何を言ったか分らなかった。「なんだ?」と、ハンターは聞き返した。また言ったが、聞こえなかった。妻も侍女もハンターを見上げて笑った。初夏の日差しを浴びた女の笑顔は健康だった。ハンターは、しかし、不機嫌になった。次第にそれが見知らぬ黄色人にまぎれてしまう不安があった。彼は部屋にもどった。

ハンターは年をとるにつれ自分が英国人であることを

強く意識するようになっていた。この洋館をドイツ人から譲り受け、グラスゴーから取り寄せた家具で飾るのも、英国回帰の念が押えがたかったからである。またそれは、自分がこの国の近代化の捨石に他ならなかったという諦念に対する反発でもあった。

ハンターは一八四二年北アイルランドのロンドンデリーで生まれた。十五才で国を出て、オーストラリア、香港、上海をまわり、一八六五年(慶応元年)に横浜に着いた。そこでE・C・キルビーと出会い、二人は一八六八年の開港から神戸に住んだ。

キルビーはやがて造船が盛になると見越して小野浜に造船所をつくった。ハンターはそこで造船を学び、また秋月清十郎を知った。キルビーは若いハンターに事業の厳しさを教えた。彼はこの国の一員として近代産業を根づかせようと尽力した。日本最初の鉄製汽船を造り、近代経営を導入したが、失敗し、挙銃自殺をした。ハンターが秋月とハンター商会をひらき、大阪鉄工所を設立できたのは、ひとえにキルビーという手本があったからだ。彼を知らなかったら、七十六才の今日までこの国に留まることはなかったろう。秋月清十郎は日本人とは何であるかをハンターに教えた。この元紀州藩士は信が厚く勤勉実直で研究心に富み、新しい国にふさわしい男だった。秋月と仕事をしているところがハンターの全盛だった。煙草や煉瓦会社を興したり、日本米を精製して英国に送っ

た。タイや北米から木材を多量に輸入した。さらに、独立党の金玉均と結んで朝鮮貿易を図ったこともある。

ハンターには開港以来の神戸をすべて見てきたという自負があった。この古くて新しい国と共に生きて来た。

だから、横浜の居留民が日英条約の改正に反対したのを憤慨し、神戸の居留民の意見をまとめ賛成した。ハンターは居留民も日本人も一体となって建国にはげむべきだと考えていた。それが神戸を故郷とし、日本人と結婚し、神戸に死ぬことに決めたハンターの信念だった。しかし、この国では大和民族以外はすべて異人であった。異人を含めて国をつくるという思想がなかった。

ハンターは妻の言葉をたしかめるために下に行こうとした。侍女が階段を上って来た。赤紫と白のアゼイリア

を抱えた日本娘の若さが眩しかった。

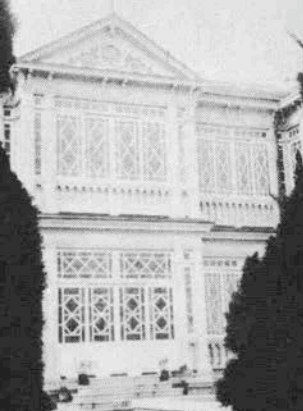
「おい、さきほど、奥さんは、何と言ったんだ？」と、ハンターがたずねた。侍女が相好をくずした。丹波から出て来てまだ一年にならない。ハンターにも物怖しなかった。国の変化は人間をも変える。

「お薬を、お呑みになりましたかと、おっしゃいました」と、侍女は歌うように言った。ステンドグラスを透した光が白いエブロンに微妙な色を映している。「近ごろ、よく、お怒りになると、こぼされました」

「なんだ。そんなことか」

老ハンターはぶつきらぼうに眩いた。ハンターは六月二日に死んだ。

現存異人館のなかで最も規模の大きい「旧ハンター住宅」。  
北野町から王子動物園東隣に移築されている。





# 異人館連続殺人事件

新井 満（シンガーソングライター）

カメラ／緒方 しげを

眼が悪い。

それも相当に念が入っていて、まず強度の近視である。接唇するほど近づかぬと相手の顔がわからぬ。相手が美人なら都合だが、そうでない時の方が圧倒的に多い。次に強度の乱視である。お月さまが四角に見える。ペチャパイの女がマリリンモンロー風に見える。不便である。

三番目に強度の斜視である。主人の私に断わりなく目玉が勝手に散歩に出る。これが始まると風景の左右が入れ替って見えるから困る。私が三輪車以外の車を決して運転しないのは、運転すれば必ず人をひき殺す自信があるからだ。

近視乱視斜視。これがホントの三拍視そろったイイ男である。

元来は、眼は良かった。それがどうして突然、眼を悪くしたのか、その話を次に書く。題して異人館連続殺人事件の顛末。

☆ ☆

港が見える丘の上に立つ異人館。その持主は愛さんという若い中国人で、莫大な遺産を相続した上に絶世の美女だという評判であった。ところが彼女、男運が悪い。

六年前にAという男と結婚した。

ところがAは、結婚直後、突然失明。

「美し過ぎるものを見てしまった…」

とだけ言い残して行方不明になった。

四年前にBという男と結婚した。

ところがBも又、結婚直後、突然失明。

「完璧過ぎるものを見てしまった…」

とだけ言い残して失踪。

二年前にCという男と結婚した。

ところがCも又々、結婚直後、突然失明。

「この世ならぬものを見てしまった…」

とだけ言い残して蒸発。

つづげさまに結婚したばかりの大的男三人もが姿を消したのである。警察も黙って見すごすわけにはいかなかった。その上、三人はすでに殺されているのではないかと、という噂まで出る始末。北野町警察のコロナボこと私目暮警部は丘の上の異人館へ急ぐ。初夏の夕方である。本造二階建ての切妻造り。建物の中央には円型の塔屋。玄関に立つと、まるで私を待っていたかのように扉が音もなく開いて女が一人、

「愛さんですか？ 私が本日来ました理由は…」

「わかっております。三人の主人たちのことでございましょう？」

「これは話が早い。巷では、あなたがご主人たちを殺したのではないかなどと馬鹿な噂をする人が居ましてネ…」

「噂ではありません。本当のことです」

「エッ?!

「はい。ですから私が三人を殺したのです」

「どうして又?」

「大体、結婚なんかしてはいけなかったんです、私。でも三人三様の強引なプロポーズを断り切れませんでした。それで仕方なく、ある条件を付けて結婚したのです」「と、言いますと?」

「ベッドの中で決して明かりをつけぬという…」

「こりゃ又」

「でも、夫たちは結局、三人とも私との大切な約束を守ってはくれませんでした。そうして、見てはいけない私の体の秘密を見てしまい、そのあげく失明してしまったのです」

「で？」

「あの秘密を知られたからには生かしておくわけにまいりません。失明したのを幸い、二階から突き落とし気絶させ、海に運んで沈めました」

「な、な、なんという残酷なことを。それでも貴様は人の子か？」

「いえ、人魚の子です」

「ギャツ?!」

☆

☆

なんと愛さんは、人魚だったのだ。

それで謎が解けた。この異人館の壁の不思議な装飾は意味なくほどこされたのではない。人魚のウロコを型どっていたのである。

逃げ足の早い彼女を、須磨の海岸まで追いつめ、まさに捕えようとした瞬間、彼女は着ているもの全てをパツとぬいでしまった。その時、私は見た。この世ならぬほどに美しく完璧なものを。月の光に怪しく輝く人魚のウロコを。

「あつ、なんて綺麗な…」

ボンヤリ眺めている私のスキについて彼女は海の中へザブーン。

私の眼はあの瞬間から悪くなった。しかし、悪くなったとはいえ、せいぜい近乱斜の三拍視でいどで済んだのである。失明を免れただけ幸運だったと言わねばなるまい。

「階の喫茶室の横には古いコーナーもある「うろこの家」(北野町)」

